日本語を学びたい外国の方へ 春の日本語会話教室 始まります！オンライン授業も受付中

当協会の日本語ボランティアが丁寧に指導します。ご近所やお知り合いの方で日本語を習いたいという外国出身の方がいましたらご紹介ください。英語、中国語、ベトナム語の案内チラシも用意しています。

内　容　日本語の文法を中心に、レベル別グループレッスンで学習します。
申込み　3月24日（水）まで当協会へ
初めて参加する方は、クラス分けのための簡単なレベルチェックを行います。

日　時　★夜間コース　毎週木曜日　18:30～20:00
4月1日～6月24日（全12回）　4月29日を除く
★午前コース　毎週金曜日　10:00～11:30
4月2日～6月18日（全12回）
場　所　会津稽古堂
受講料　会員　4,000円　　会員外　6,000円

≪日本語ボランティアの方へ≫ 春期日本語会話教室の開講に先立ち、★夜間コースは3月25日（木）18:30から、★午前コースは3月26日（金）10:00から、会津稽古堂3階ブース1にて事前打合せを行います。

3月のイベントカレンダー

日	曜	行事予定
1	月	休館日
2	火	
3	水	
4	木	
5	金	
6	土	9:30　Zoom体験会
7	日	休館日
8	月	休館日
9	火	13:30　日本語サロン
10	水	
11	木	
12	金	
13	土	9:30　Zoom体験会 14:00　幹事会
14	日	10:00　子ども日本語ひろば
15	月	休館日
16	火	13:30　日本語サロン
17	水	
18	木	
19	金	
20	土	休館日
21	日	休館日
22	月	休館日
23	火	13:30　日本語サロン
24	水	
25	木	18:30 日本語ボランティア打合せ
26	金	10:00　日本語ボランティア打合せ
27	土	10:00　JICAいろいろ相談会 13:00　日本語ボランティア研修会 13:30　情報紙発送作業
28	日	10:00　子ども日本語ひろば 14:30　日本文化体験（いちご大福）
29	月	休館日 15:00　理事会
30	火	13:30　日本語サロン
31	水	

ぜひ見て！JICA海外協力隊の写真展

福島県ゆかりのJICA海外協力隊の隊員たちが、任国で撮影した写真を集めました！首都、人、家の3つのパートに分かれています。彼らの視点を通して“世界”を感じてみてください。

設置場所
レオクラブガーデンスクエア 5階フロア
（当協会フロア）
期間　3月末まで

気に入った写真に「いいね」のシールをはってね！

ボランティアの募集

協会情報紙の袋づめや、宛名シール貼りなどの簡単なボランティアを募集しています。1時間～1時間半で終了します。申込み不要。どなたでもお気軽にお越しください。
日　時　3月27日（土）　13:30～　　場　所　当協会

1月号で募集した書き損じ&未使用はがきは156枚集まり、国際NGOプラン・インターナショナルはがき送付先の宮城学院女子大学学生グループへ送りました。皆様のご協力ありがとうございました。

http://facebook.com/awiajp

AWIA_PHOTO

会津若松市国際交流協会
〒965-0871　会津若松市栄町2-14　レオクラブガーデンスクエア5階
TEL：0242-27-3703　FAX：0242-27-3704
Webサイト：http://awia.jp　メール：mail@awia.jp

第297号　2021年3月号

会津若松市国際交流協会 情報紙

FINE

Freedom/International/Necessity/Experience

会員限定企画

Zoomを使おう！ オンラインビギナーのための“つながる”講座

協会のオンラインイベントに興味があるけれどやり方がわからない！そんな会員さんのための特別講座です。各自のパソコンにZoomをいれて使えるようにサポートします。最後は海外のスペシャルゲストとオンラインで会話してみましょう。

申込み時に①か②のどちらの日程が希望かを伝えて下さい。（どちらか1回のみ）

日　時　①3月6日（土）　または　②13日（土）
9:30～11:00
場　所　当協会（レオクラブガーデンスクエア5階）
参加費　無料　　※会員限定
定　員　各回5人程度
持ち物　★自分のパソコンまたはタブレット（スマートフォンも可）とヘッドフォン（=イヤフォン）を持ってきてください。
申込み　各回前日までに当協会へ

春休み特別企画

世界とつながる仕事がしたい！ JICA海外協力隊に聞いてみよう

JICA海外協力隊に興味のある方や、何となく“世界”とつながる仕事をしたいけれど、何から始めればよいかわからない皆さん。JICAボランティア経験者の話を聞いてみませんか？国際、語学、進路のことなど、何でも気軽に相談できる時間も設けます。学生さんも大歓迎！

日　時　3月27日（土）　10:00～11:30
場　所　会津稽古堂3階　研修室1
ゲスト　笹尾 員統さん/ボリビア/環境教育　（現JICA福島デスク）
荒川 芳恵さん/モンゴル/青少年活動
前田 尋貴さん/ルワンダ/コミュニティ開発
対　象　国際協力やJICAの活動に興味がある方
参加費　無料　　申込み　3月19日（金）までに当協会へ

日本語教授法

日本語ボランティア スキルアップ研修会
教えすぎない教え方 メディエーターという立場について

日本語ボランティアをしている方や、日本語ボランティアに関心がある方が対象です。「メディエーター」とは「対話を促進する仲介役」のこと。一方的に教えるのではなく、学習者が主体的に学ぶことができるような教授法を目指します。講師が事前に寄せられた質問に答えたり、グループで教案を作成し、互いに模擬授業を行います。事前の質問はメールかFAXでお寄せ下さい。

日　時　3月27日（土）　13:00～16:30
場　所　会津稽古堂3階　研修室1
講　師　会津大学特任准教授　草刈 明美さん
対　象　日本語ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ及び関心がある方（30名）
参加費　当協会会員 無料　　会員外 1,000円
申込み　3月24日（水）までに当協会へ

⇒春期日本語会話教室のお知らせは4面に掲載しています

日本文化体験

作って祝おう 旬の和菓子“いちご大福”

観光果樹園がぶりガーデンで、いちご大福の手作り体験をしてみませんか？
みんなで作って、会津の春をお祝いしましょう！（英語、中国語通訳あり）

日　　時　3月28日（日）　14:30～（40分程度）
集合場所　**がぶりガーデン**（会津若松市東山町大字石山字院内408）
※現地集合　現地解散
※会津若松駅から車で約20分／駐車場10台
※まちなか周遊バス「会津武家屋敷」下車してすぐ
参 加 費　会員＝800円　会員外＝1,100円　※いちご大福6個セット
定　　員　20人　　申込み　3月26日（金）までに当協会へ

2011. 3. 11 東日本大震災 あの時の私

東日本大震災から10年を迎えるにあたり、外国出身で会津歴の長い、佐藤ジュリーさんとトラン ティ ミリさんにお話を聞きました。避難所で英語の絵本を読んで子どもと遊んだジュリーさんと、避難所に温かいベトナム料理を差し入れしたミリさん。お二人に共通していたのは「私が気づき、私が動く」という姿勢です。外国出身者だからこそできることで被災者に寄り添った二人の姿に、“みんなで生きる”多文化共生社会への希望を感じました。

佐藤ジュリーさん

カナダ出身。英語指導助手として２０年以上前に来日しました。ご自身で経営するSay・It・Right・ランゲージ・スクールや、幼稚園などで英語を教えています。会津にはジュリーさんを「先生」と慕う教え子がたくさんいます。

大人たちを休ませてあげたい

2011年3月11日を、私は決して忘れないでしょう。地震が起きた時、私は地元の幼稚園の放課後クラスで英語の授業をしていました。同僚の先生と私はまず、子どもたち全員がテーブルの下に隠れたかどうかを確認しました。私の心はパニック状態でしたが、せめて外見だけでも落ち着いてみえるようにと努力しました。それから、子どもたちを安心させるために、絵本を読んであげたり、英語の歌を歌ったり手遊びをしたりました。余震のたびに彼らを外に連れ出して、揺れが収まったら屋内に戻ることを繰り返しながら、最後の親が迎えに来るのを待ちました。

ようやく自分の家に帰ることができ、子どもたちと一緒にテレビを見たとき、私は周りで起こっていた凄まじい状況を知ってショックを受けました。私の家族や友人たちは無事でした。しかし、他の人を助けるために自分にできることが何もないように感じ、私は無力だと思いました。

数日後、会津に被災者のための避難所が開設されたと聞きました。私はすぐに会津総合体育館へ行き、ボランティア登録をしました。避難所に行って驚いたのは、一つの部屋にたくさんの行き場のない人が避難していたことです。私は英語の絵本を片手に、遊んでほしそうな子ども達を探して歩き回りました。絵本を読んであげると、子どもたちから笑い声があがりました。私は、こんなときでも子どもが楽しめることに驚くとともに、次に何が起こるかを心配して不安そうな大人たちを見て心が痛みました。「大人たちを少しでも休ませてあげよう！」。そう決めて、絵本を持って避難所に通い、子どもたちと遊びました。

ある日、綿あめ機を手に入れました。綿あめを作ってあげたときの子どもたちの笑顔を、私は決して忘れることはないでしょう。救援物資センターにボランティアに通ったこともあります。そこでも、親たちが必要な物資を手に入れている間、子どもたちと一緒に遊びました。

いろいろな理由で思い通りにボランティアができなかったこともありました。ですが、あのときの子どもたちの笑顔は私の宝物として、永遠に脳裏に焼きつくことでしょう。

トラン ティ ミリさん

15歳で家族とベトナムから移住。2000年に市内に構えたベトナム料理店「ミリ・サイゴン」は、4年前に惜しまれながら店を閉じました。今は200人近いベトナム人実習生のアドバイザーとして、「おかあさん」のように頼られる存在です。

ベトナム料理で温まってほしい

ランチの営業が終わってお昼ご飯を食べていた時に地震が起きました。被害の大きさや津波の情報を聞いて、「どうしよう！怖い！わけがわからない！」と思いました。散乱したお店を片づけて夜中に家に帰る途中、会津の町は真っ暗でしーんと静まり返っていました。「日本はこれからどうなるの？」。突然不安が襲い、怖くて涙がでました。

3月15日頃でしょうか。知人が、親戚がいる仙台の避難所に食べ物を届けるというので、私も、仲間と一緒に食べ物を集めることにしました。北会津の農家さんがリンゴを15箱、八百屋さんは野菜を提供してくれました。私は店の従業員と一緒に大鍋いっぱいのカレーを作りました。自分のトラックから軽油を抜いて分けてくれた友人もいました。会津大学のベトナム人留学生が「僕も行って手伝う」と言ってくれ、みんなの力でワゴン車いっぱいの食料を、仙台に届けることができました。

会津の避難所へも、みんなで食事の差し入れをしました。ベトナム料理のコンガー（鶏ごはん）やデザートを届けたこともあります。どんぶりや箸なども全部持って行き、外でスープをとって鶏肉のフォー（ベトナムのヌードル）も配りました。「初めてフォーを食べた！」と喜んでくれる人がたくさんいて嬉しかったです。

ある日、ボランティアさんがいつも冷たいお弁当を食べていると知り、心が痛みました。「ボランティアさんにも温かい食べ物をあげたい」と思い、毎回味をいろいろ工夫した温かいスープを差し入れました。「おかげで温まった。あの時のスープの味が忘れられない」と後から伝えてくれた人がいて、頑張って良かったと思いました。

友人は当時を振り返って、「あれはミリさんの性格だからできたよね。困っている人の話を聞くと、『じゃあ、やってあげよう』となる。独特のパワーがあるよね」と言ってくれます。そう言われるのは嬉しいです。でも、私はいつも一人ではなかった。いつもそばに心強い仲間がいて、一緒に考え、走り回ってくれたからこそ、頑張れたのだと思っています。

地域の“外国人”と共に乗り越える災害

新潟県長岡市で防災教育の仕事をしていた筑波さん。３年前に会津若松市へ引っ越してきてからは、当協会の日本語ボランティアとして活動しています。
外国人と日頃から接する私たちは、災害時にどのようなことを心がけたらよいのでしょうか？筑波さんに、各地でのご自身の経験をもとにお話していただきました。

Tsukuba Hisako
筑波 央子さん

Profile
新潟市生まれ。大学院在学中、ドイツのベルリン・フンボルト大学に交換留学。帰国後、長岡市にて新潟県防災教育推進事業に携わる。
・防災教育コーディネーター
・認定キャリア教育コーディネーター

自宅でオンライン講座を受講中

近くに住む外国の方のために
災害時に“わたし”ができること

私がドイツのベルリンに留学していたのは、もう12年も前になります。とても楽しい1年間でしたが、いくどか不安に感じた出来事がありました。

乗車している電車が突然止まってしまったときのことです。車内アナウンスが聞き取れず、なぜ止まっているのかもわからないまま数十分立往生しました。またある時は、部屋の暖房が故障してしまい、ドイツ人の同居人も留守だったので、なすすべもなく、防寒着と毛布をかぶって一日やり過ごさなければなりませんでした。自国だったらなんとかなることも、言葉がよくわからないと不安がとても大きくなるということを実感した出来事でした。

同じことが、日本に住む外国の方にも当てはまるのではないでしょうか。日本語が堪能でも、外国に住んでいるだけである種の緊張感を持って暮らしているのだと思います。そんな時、自国ではめったに起こらない自然災害が起こったとしたらどうなるでしょうか。途方に暮れてしまう人も少なくないと思います。

私は3年前まで、新潟県長岡市で防災教育の仕事をしていました。その際、“外国人”が災害時要支援者に含まれていることを知りました。地震を経験したことのない外国の方の中には、地震をクーデターだと思った方、終末論を叫んだ方もいたそうです。また避難所では宗教的な理由から支給されたお弁当が食べられない方、「一人一つずつ」という暗黙の了解が通じず、避難所の毛布をありったけ持って行ってしまう方もいたそうです。

“外国人”と接する私たちは、言葉だけでなくその裏にある文化的背景をも通訳する役割を担っています。そのためには他国の文化を理解し、尊重することも重要です。また「やさしい日本語」という平易で伝わりやすい言葉を使えば、外国の方だけでなく、お年寄りや子どもたちも理解しやすくなります。そしてなによりも、平常時から人と人とのつながりを持っておくことで、災害時に助け合う関係を築くことができます。

コロナ禍において物理的距離を保たなくてはいけなくなりましたが、心の距離まで遠くならないよう、お互いを思いやる心を持ち続けたいですね。

みんなで高めよう！「ぼうさい」意識

“外国人”のための防災講座を実施しました

昨年11月、会津稽古堂にて、当協会と福島県国際交流協会との共催で行いました。中国、カナダ、オーストラリア出身の外国人住民8人と通訳2人、そして防災教育コーディネーターの筑波さんがオブザーバーとして参加しました。

1. 日本語講座
「災害の時の日本語」日本語ボランティア／青山孝男さん
2. 防災の話
「災害から命を守る」市危機管理課職員
参加者の住所に印をつけたハザードマップを配布し確認

地域に暮らす外国人住民が増えている一方、災害対応には未だ課題も多くあります。参加者からは、「さいがい」「かんこく」「あんぴ」などの日本語を初めて知ったという声や、ハザードマップで自分の家が確認できて良かった、このようなイベントをもっと開催してほしいという感想が寄せられました。